

教育 小学校アルマイト食器の見直しを実現

名古屋市内の小学校では、給食を盛り付ける食器に、全国的にはほとんど使われなくなった金属製アルマイト食器が使われています。

アルマイトの食器は、熱の伝わり方が早いので、汁物を入れた際には熱くて持てず、磁器や陶器の茶碗のように、糸底を手で支え、茶碗の縁に指を正しく置いて、食器を持つことができません。そのため、「ひっかけ指」と言うそうですが、正しくお茶碗をもてない子どもたちが増えています。

現在、名古屋市内の小学校の全児童11万760人のうち、半数近い43パーセントの4万8千60人が、未だにアルマイト製食器を使っています。今後も熱くて持てないアルマイト製食器を使わせ続けるつもりなのか、見解を尋ねました。教育委員会からの答弁は、やるのかやらないのか、はっきりしなかったため、市長に決断を強く迫りましたところ、



市長から、平成28年の4月から置き換えるとの答弁がありました。

給食食器「名古屋は瀬戸物でやらない」
名古屋市の市立小学校の約4割で給食に使われるアルマイト(軽金属)製食器。汁物をいれると全体が熱くなり、持てなくなると不評という。河村たかし市長は27日の市議会で「名古屋は瀬戸物でやらないかん」と述べ、来春の切り替えを表明した。
「茶わんを正しく持てなくなる」と指摘し、切り替えを求めた

アルマイト製切り替え

河村市長が表明

河村市長は「瀬戸の地場産業も苦しんでいる。名古屋の街を支えた陶磁器産業は大事だ」と語るが、実現できるかは今後を待つことになりそうだ。
「あさい正仁(自民)」に答えた。ただ、5年をかけて樹脂食器などへ順次切り替える方針を示した市教委とは食い違つた。
河村市長は「瀬戸の地場産業も苦しんでいる。名古屋の街を支えた陶磁器産業は大事だ」と語るが、実現できるかは今後を待つことになりそうだ。

(嶋田圭郎)

平成27年11月28日 朝日新聞

給食の金属食器を陶磁器に

市内の四割の小学校の給食に、熱い汁物が入るアルマイト製の食器が使われている。河村たかし市長は「名古屋は瀬戸物でやらないかん」と述べ、来春の切り替えを表明した。

市長、総入れ替えアイデア披露

ただ、購入用の手当てや、スチールの食器の切替や、給食の調理方法など、学校側が準備する必要がある。河村市長は「市教委と連携して、5年かけて樹脂食器などへ順次切り替える方針を示した」と述べた。河村市長は「瀬戸の地場産業も苦しんでいる。名古屋の街を支えた陶磁器産業は大事だ」と語るが、実現できるかは今後を待つことになりそうだ。

平成27年11月28日 中日新聞



百の主張より一つの行動

あさい 正仁

あさい正仁 特集号

発行所：自由民主党本部
郵便番号：100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話：03-3581-6211 代表

中川区の皆様、こんにちは。

わが国を取り巻く国際情勢が大きく変化する中、課題が山積みであった激動の27年も終わり、早いもので平成も28年になりました。

平成生まれの方が、社会の中心として活躍する時代がやってきた訳ですが、この28年間を振り返ると、少子高齢化の進展など、過去の経験だけでは対処できない様々な課題が、次から次へと生じる時代になっています。

例えば、名古屋に目を転じてみると、平成25年に私が議会で質問した敬老パスの存続問題があります。高齢者が増える中、安易に負担金を値上げするだけでは、誰もパスを受け取らなくなります。

一方、財源の問題もあり、持続可能な制度となるようにしなければなりません。この問題を解決する第一歩として、様々なデータを集積し、多様な割引なども実現できる敬老パスのICカード化を進めるよう提案しましたが、28年にはいよいよ実現することとなります。

私は、こうした課題から目をそらさず事実を市民の皆さんに伝え、市民の皆さんと共に考え、実行していくことが求められているのではないかと感じ、地元中川区で活動しています。

今回は、私の名古屋市政に対する最近の取り組みを、皆様にお知らせしたいと思います。

「汗と正直さが報われる社会をつくるために！」

草津温泉 ホテル櫻井

日本の温泉100選
12年不動の連続1位



お一人様

23,000円 平成28年 3月27日(日)~28日(月) 1泊2日

南信州 さくらんぼ祭り

園内食べ放題!!



お一人様

8,000円 平成28年 6月26日(日) 日帰り

名古屋市長は27日、名古屋港で整備が進む人工島「ポートアイランド」を、金城ふ頭(同市港区)などと鉄道で結ぶ計画を検討する意向を明らかにした。名古屋駅と金城ふ頭を結ぶ名古屋臨海高速鉄道「あおなみ線」の延伸を念頭に、愛知県や名古屋港管理組合と今後調整する。

同日の市議会11月定例会の本会議で、**浅井正仁**市長(自民)の質問に、黒田昌義住宅都市局長が答えた。

黒田局長は名古屋港の

ポートアイランドは、貿易黒字額約5兆7千億円、17年連続日本一を記録している「中部地域の海の玄関」名古屋港にあります。

金城ふ頭から直線距離で約3kmという良い立地にも関わらず、名古屋港のど真ん中にあるため、どここの陸地からも繋がっていない、いわばアクセスのできない人工の土地です。20年先・30年先を見据えた「未来志向」の観点から、ポートアイランドの将来像について、どのように、具体的な議論を始めていけばいいのかといった点を質問しました。

住宅都市局からは、「ポートアイランドへのアクセスの検討が必要と考えており、来年度、名古屋港管理組合において、アクセスに係る調査研究を予算計上する方向で検討しているので、そのなかで、金城ふ頭からのアクセスも含め、必要な連携・調整を図っていく」との回答がありました。

金城ふ頭からのアクセスも検討することに!!

あおなみ線の延伸検討

名古屋市 金城ふ頭から人工島まで

あおなみ線の延伸構想

ポートアイランドの活用、アクセスに関する調査について「将来の名古屋港管理組合と連携して今後の臨海部を開発する」との意向を、発に組み込む意向だ。

「金城ふ頭からのアクセスを含め検討するよう、970年代に埋め立てを興や名古屋港管理組合と始めた公共用地で、広さは約257畝。現在は土砂の処分場として使われている。

同港管理組合は、来年度予算に鉄道や道路などを

平成27年11月27日 日経新聞

名古屋市では、福祉特別乗車券と呼ばれる乗車券があり、市内在住でこの乗車券をお持ちの方は、市バス・地下鉄に無料で乗車することができます。また、市外の方等、この福祉特別乗車券をお持ちでない方であっても身体・知的障害者の方は、運賃が半額となるのに対し、精神障害者の方については、市バス・地下鉄に乗車した場合には、割引にはなりません。

こうした中、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とした障害者差別解消法が、平成28年4月から施行されます。法の趣旨にもあるように、健常者と障害のある方との間で格差があってはならないのは当然ですが、障害をお持ちの方の間でも、障害の種別を理由とする格差はあってはならない訳です。

そこで、交通局に対し、精神障害者の方の割引について質問したところ、「法の趣旨を踏まえ、精神障害者についても平成28年4月から割引を実施したい」との答弁があり、

名古屋市で日本初の割引が実現することとなりました。

日本初の実現!

平成27年9月18日 朝日新聞

来春から市外在住精神障害者も半額

地下鉄など運賃料にしている。この乗車券を持っていない場合でも、身体・知的障害者に関する運賃を半額にしてきた。

「一局長は「二〇一六年四月に障害者差別解消法が施行される。来年4月1日から、バスや地下鉄を利用する全ての精神障害者に割引料金を適用し、半額とする。これまで市外の精神障害者には割引料金がなかった。市外、県外の人たちも対象に、居住

乗車券を交付されている障害者の運賃を無料にしている。この乗車券を持っていない場合でも、身体・知的障害者に関する運賃を半額にしてきた。

「一局長は「二〇一六年四月に障害者差別解消法が施行される。来年4月1日から、バスや地下鉄を利用する全ての精神障害者に割引料金を適用し、半額とする。これまで市外の精神障害者には割引料金がなかった。市外、県外の人たちも対象に、居住

平成27年9月18日 中日新聞

全精神障害者に割引運賃を適用

名古屋市の交通局は、障害者差別解消法が施行される来年4月1日から、バスや地下鉄を利用する全ての精神障害者に割引料金を適用し、半額とする。これまで市外の精神障害者には割引料金がなかった。市外、県外の人たちも対象に、居住

地域の制限なく割引料金を適用するのは、バスと鉄道の両事業を行う全国7都市では初という。

17日の市議会本会議で二神暹交通局長が、浅井正仁市長(自民)の質問に答えた。同局によると、こうした制度は、東京都ではバスにあるが、地下鉄にはない。仙台市は宮城県民が対象という。

まさひとの市政レポート

安心・安全 スプレー缶の捨て方をより安全なものへ改善

ヘアスプレーや、カセット式ガスボンベには、可燃性のガスが使われており、これらを捨てる際に、缶の中にガスが残っていると、爆発したり、ゴミ収集車が火災を引き起こすという事故につながるため、名古屋市では、中身を使いきった後、風通しの良いところで、缶に穴を開けて捨てて下さいと市民にお願いしています。

しかし、缶に穴を開けたところ、内容物である可燃性ガスに引火して、爆発、ケガをするという、大変危険な事例が全国で発生しており、名古屋市でも25年度に5件、26年度には8件のスプレー缶による火災事故が発生しました。

穴を開けずに捨てるよう取り扱いを改めた自治体もあるため、名古屋市でも、この危険な取り扱いを改めるべきではないかと環境局に迫りました。

市長からは、穴を開けるのは危ないので、穴を開けないように早速指示するとの発言があり、

名古屋でも、準備が整い次第穴を開けずに捨てることとなります。



議会での活動について 中京テレビ密着取材

